

当院における ABC 検診結果についての検討

中川 友里、松島 由美、加藤 純子、山田 佐知子、立田 浩
(大阪府済生会茨木病院 健診科)

[目的]

胃癌 ABC 検診の結果について、同時に行った検診結果をもとに、年齢、高血糖、脂質異常との関連について検討した。[方法]2014 年 4 月から 2017 年 3 月までに当院で ABC 検診を受診した 306 人について検討した。空腹時 110mg/dl 以上または HbA1c 6.5% 以上を高血糖群とした。また、LDL-C 140 以上を脂質異常群とした。

[結果]

検診受診者の内訳は、40 歳台/50 歳台/60 歳台/70 歳台が各々 104 人/54 人/96 人/52 人であった。ABC 検診の結果は A67.3% B18.0% C13.7% D1.0% であった。Hp 抗体陽性率は全体で 32.7%、40 歳台/50 歳台/60 歳台/70 歳台は各々 13.5%/25.9%/45.8%/53.8% であった。高血糖群は 31 例で Hp 抗体陽性率 51.6%、血糖正常群は 270 例で、31.1% であった。ABC 判定では、高血糖群 A48.4% B29.0% C19.4% D3.2%、血糖正常群 A68.9% B17.0% C13.3% D0.7% であった。脂質異常群は 111 人で Hp 抗体陽性率 43.2%、脂質正常群では 26.7% であった。判定では、脂質異常群 A56.8% B19.8% C20.7% D2.7%、脂質正常群 A73.3% B16.9% C9.7% D0% であった。追跡可能であった 265 例中 C 群で 1 例の進行胃癌、D 群で 1 例の早期胃癌が診断された。

[考察]

Hp 感染及び胃癌と、高血糖や肥満とが相関する報告があり、今回の検討でも高血糖群で Hp 抗体陽性率が高く、Hp 抗体陽性である B 群と C 群の比較では、高血糖群の方が C 群の割合が多い傾向が見られた。また、脂質異常群も正常群に比して Hp 抗体陽性率が高く、脂質異常群で C 群の割合多い傾向が見られた。[結論] Hp 抗体陽性率は加齢とともに増加を認めた。高血糖群、脂質異常群は正常群に比べ Hp 感染率は高く、萎縮の進展例も多い傾向が見られた。
